

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「物語の全体像を想像し、考えたことを伝え合おう」 教材名「たずねびと（朽木祥）」

2 単元の目標

比喩や反復などの表現の工夫に気付く（(1)ク）。人物像や物語全体を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、文章を読んでまとめた意見や感想を共有して、自分の考えを広げることができる（C(1)エ・力）。言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（(1)ク）	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。（C(1)エ） ②「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)力）	①進んで、物語全体を具体的に想像し、学習の見通しをもって、考えたことを文章にまとめて伝え合おうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本教材は、主人公の綾が、駅で見たポスターに自分と同じ名前を見付けたことから広島を訪ね、資料館や祈念館で見たこと、そこで出会ったおばあさんとの出来事から、戦争で亡くなった人々や平和についての思いを変えていく物語である。綾の一人称で語られるので、出来事だけでなく、綾がその時に何を思ったかが語りの中に書かれている。物語の始めと終わりで綾の思いがどう変わったかを捉え、題名

「たずねびと」の意味を考えることが、学習指導要領第5学年及び第6学年のC(1)エに当たる。人物像や物語全体を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする指導事項である。「名前」など、物語の中でくり返し出てくる言葉があるので、(1)ク「比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと」と結び付けて表現の効果を考えられる。言語活動はC(2)イ「詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動」に当たる。第3学年及び第4学年で学んだ、気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて想像する学習（〔第3学年及び第4学年〕C(1)エ）を受け、物語全体をひとまとまりとして捉える学習へ進む。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、物語全体を、始めと終わりの綾の思いの違い、変化のきっかけになった出来事、題名の意味の三つで捉えさせる。場面ごとに読んで終わりにせず、表で始めと終わりを並べて見比べる時間を取る。また、くり返し出てくる言葉に目を向けさせ、その言葉が出てくる場面を並べて、場面ごとに重みはどう違うかを比べさせる（(1)ク、C(1)エの「表現の効果」）。そして、戦争や平和についての教訓を言わせる授業にはしない。国語科で見るのは、叙述を基に綾の思いの変化を読んでいるかである。戦争の描写を強く受け止める子や、家族の事情で配慮が要る子がないかを、単元の前に確かめておく。単元の終わりの文章は、始めと終わりの綾の思い、変化のきっかけ、題名の意味の三つが叙述を根拠にそろっている物を「おおむね満足できる」状況、くり返し出てくる言葉の効果にも触れて、物語全体から受け取ったことを自分の言葉で説明している物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○範読を聞き、初発の感想（強く印象に残ったこと・疑問に思ったこと）を書く。 ○感想を出し合い、単元の問い「綾の思いは、物語の始めと終わりでどう変わったのか。題名『たずねびと』にはどんな意味があるのか」と学習の進め方を決める。	態①（観察・感想）
第2次	2	○物語を場面に分け、場面ごとの出来事と、その時の綾の思いを表にまとめる。	
	3	○綾の思いが変わるきっかけになった出来事（資料館・祈念館・おばあさんとの出会い など）を、描写を基に捉える。 ○物語の中でくり返し出てくる言葉を探し、出てくる場面を並べる。	知①（表・ノート）
	4 （本時）	○物語の始めと終わりの綾を比べ、変化のきっかけと結び付けて題名「たずねびと」の意味を考え、物語全体について考えたことを自分の言葉で書く。	思①（ノート）
第3次	5	○くり返し出てくる言葉など、印象に残った表現の効果を考え、単元の問いへの考えを文章にまとめる。	思①（文章）
	6	○まとめた文章を読み合い、自分の考えと比べて広がったことを書く。 ○戦争や平和を扱ったほかの本を紹介し、並行読書を始める。	思②（付箋・振り返り） 態①（文章の見直し・振り返り）

6 本時の指導 (4/6)

(1) 本時の目標

物語の始めと終わりの綾の思いを比べ、変化のきっかけになった出来事と結び付けて題名「たずねびと」の意味を考え、物語全体を具体的に想像できる。(C(1)工)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時までの表で、場面ごとの出来事と綾の思いを確認する。 2 本時の問いをつかむ。 ○「物語の始めの綾と、終わりの綾は、同じですか。違いますか」 【めあて】始めと終わりの綾をくらべて、題名「たずねびと」の意味を考えよう。 〈予想される児童の反応〉 ・始めは、自分と同じ名前に驚いただけだった。 ・終わりの綾は、その名前の子のことを思っている。 ・題名の意味は、まだはっきりしない。	・前時までの表を黒板に貼り、始めと終わりの場面の欄を目立たせておく。 ・始めと終わりの場面の叙述は、先生が教科書から書き入れたカードで示す。
展開 (分)	3 始めと終わりの綾の思いを、叙述を基に比べる。 ○「始めの場面と終わりの場面で、綾にとっての『名前』はどう違いますか。どの叙述からそう考えましたか」 4 変化のきっかけを考える。 ○「綾の思いが変わったのは、どの出来事からですか。前の場面のどこと結び付けましたか」 5 題名「たずねびと」の意味を考える。 ○「『たずねびと』とは、だれのことだと思いますか。読み終えた今、題名の意味はどう見えてきましたか」 6 グループで考えを伝え合い、全体で共有する。 〈予想される児童の反応〉 ・始めは、自分と同じ名前の人がいる、と思っただけだった。 ・終わりでは、その名前の子がどんな子だったかを思っている。 ・資料館や祈念館で、亡くなった一人一人に名前があったと知ったから。 ・おばあさんの話を聞いたから。 ・一つではなく、いくつもの出来事が重なったから。 ・ポスターでさがされている人だと思う。 ・広島をたずねた綾だと思う。 ・両方の意味があると思う。	・気持ちを言う前に叙述に線を引かせ、どの場面のどの叙述かを言わせる。 ・変化のきっかけは一つに決めず、いくつもの出来事が重なったと考える子の考えも認める。 ・題名の意味は正解を一つに決めない。叙述を根拠に言えていれば認める。 ・考えが書けない子には、表の始めと終わりの欄だけを見比べさせ、「始めは…、終わりは…」の型で書かせる。 ・早く書けた子には、くり返し出てくる言葉が、物語全体を考えるのにどう役立ったかを考えさせる。 ・戦争の被害の様子を強く受け止める子がいることに配慮し、資料館の場面は叙述の確かめにとどめ、写真などの資料は足さない。 ・台詞や叙述の引用は、使う教科書から先生が書き入れる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	7 物語全体について考えたことを、自分の言葉でノートに書く。 (型) 「始めの綾は…だったが、…という出来事を通して、終わりには…と思うようになった。だから、題名『たずねびと』には…という意味があると思う」 8 振り返りを書く。	・根拠にした叙述の場面を、括弧で添えさせる。 ・振り返りは「叙述から気付いたこと」「友達の考えを聞いて変わったこと・変わらなかったこと」の二つで書かせる。 ・次時は、心に残った表現の効果を考えて、単元の問いへの考えを文章にまとめることを伝える。 ・「戦争はいけない」などの教訓のまとめにしない。綾の思いの変化を読むことを本時の中心にする。 ◎思① 物語の始めと終わりの綾の思いを比べ、変化のきっかけと結び付けて、物語全体を具体的に想像している。(ノート)

(3) 板書計画(縦書き・右から左へ)

上段左に日付・題名・めあて。上段右に前時までの表(場面ごとの出来事と綾の思い)。中段の左に始めの場面の綾、右に終わりの場面の綾を書き、その間に変化のきっかけになった出来事(資料館・祈念館・おばあさんなど)を矢印でつなぐ。それぞれの下に根拠の叙述の場面を書く。中段の下に、くり返し出てくる言葉を、出てきた場面の順に並べる。下段に題名「たずねびと」の意味についての子どもの考え(さがされている人・たずねた綾・両方)を並べ、根拠の場面を添える。右端にまとめの文の型と振り返りの観点。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

